矢巾町塩彩（しおさい）プロジェクト

第７回 高橋昌造町長インタビュー

～「塩彩プロジェクト」で健康、復興、地方創生の三兎を追う～

「目指せ！日本一健康な町 やはば」をスローガンに、さまざまな施策を実施してきた矢巾町で、国から「地方創生先行型事業」の指定を受けた「塩彩プロジェクト」がスタートして、来月で1年を迎えます。また、今月11日には東日本大震災から5年の節目を迎えます。

プロジェクトの概要や目標、進行についてお伝えしてきたこのコーナーの今号では、高橋昌造町長に、プロジェクトへの期待や復興支援への想いを聞きました。

夏までには町内で販売 町民の皆さんの期待も大きい

――「塩彩プロジェクト」に期待することをお聞かせください。

高橋町長　まずは、町民の皆さんの健康です。ご存じのとおり、岩手県は脳卒中死亡率が日本で一番高く、塩分摂取量が日本で一番多い県で、生活習慣病の予防が喫緊の課題です。が、減塩、減塩とやかましく言われ、必要なのは頭で分かっても、なかなか生活習慣を変えるのは難しいでしょう。それが課題なんです。

「ナト・カリ塩」と最初に聞いたときは、正直なところ、あまりピンとこなかったのだけども、試食をしてみて、これはいけると思いましたね。減塩は薄味と思い込んでるから、塩気はちっとも変わらず、普通においしかったのでびっくりしました。話には聞いてましたけど、やっぱり食べてみないと、なかなか実感できません。これがあれば、食べたいものを我慢しなくても、本当に気軽に減塩できると思いました。

町民の皆さんの期待が高まっているのも驚きでした。先日（1月30日）、塩彩プロジェクトのワークショップに参加した折も、「どこで売ってるんだ」「どこさ行けば手に入るんだ」って、いろんな人から聞かれました。だから、事務局には、まずは塩とみそとしょう油だけでもいいから早く町内で流通できるように、と急かしているところなんです。今年の夏ごろまでには、なんとしても、町内で販売できるようにしたいと思っています。

ヘルスケアビジネスの中核に

――地場産業の育成という観点からはいかがですか？

高橋町長　そこが大切なところです。矢巾町の農産品を材料にして、町内の企業がナト・カリ加工食品を作って、まずは町内の小売店や飲食店で販売する。それが実現すれば、町民が健康になって、町内も活性化される。二兎を追う者は……、と言いますけど、私はこのプロジェクトではあえて二兎を追いたいと思っているんです。農家がナト・カリ加工品を作って直販すれば6次産業の育成にもなるでしょう。とにかく、いろんな人に参加していただいて、「ナト・カリ」を核にして、町民の皆さんにさまざまな事業を展開していただくことを期待しています。

「ナト・カリ食」は、今後成長が期待されるヘルスケアビジネスの目玉としても活用できるはずで、ウオーキングや生涯スポーツなどと連動した事業が考えられないか、アイデアを出すように職員にハッパを掛けているところです。

「健康やはば21プラン」から「目指せ！日本一健康な町」、そして「塩彩プロジェクト」へ

――さて、矢巾町は「目指せ！日本一健康な町 やはば」を町のスローガンに掲げています。その背景や狙いには何があったのでしょうか。

高橋町長　町がこのスローガンを掲げたのは平成20年のことです。特定健康診査・特定保健指導が全国一斉に導入された年です。そこで、このスローガンを掲げ、高い受診率を目指して、町民の健康づくりに取り

組んだ訳です。先ほども申し上げたとおり、生活習慣病の予防は町政の重要な課題でした。

さかのぼって、平成14年に「健康やはば21プラン」を策定し、「国保ヘルスアップモデル事業」に参加して生活習慣病予防対策に取り組みました。この時、助役だった私は事業本部長を務めました。翌年の平成15年には「矢巾町健康長寿のまち宣言」を行い「日本一健康で長寿の町」のスローガンへとつながっています。私が町長となってからも、その方針は受け継いでいます。町政で一番大切にしたいと思っているのは、家族がそろって健康で笑顔の絶えない家庭と地域づくりです。行政を推進する上で健康を大きなテーマにしています。

脳卒中死亡率ワースト1脱却の切り札に

――成果はいかがでした？

高橋町長　残念なことですが、平成22年に厚生労働省が公表した数字では、脳卒中死亡率は男女とも岩手県はワースト1です。しかし、矢巾町は県下33市町村の中で、脳卒中死亡率は低い方から数えて女性が4位、男性が9位です。安心はしていませんが、これは「ヘルスアップモデル事業」や、特定健診・特定保健指導の高受診率を目標に取り組んできた成果だと自負しています。

――「ヘルスアップモデル事業」があり「目指せ！日本一健康な町やはば」をスローガンにした特定健診・特定保健指導の高受診率を目指した運動があって、そして三つ目の地方創生先行型事業の「塩彩プロジェクト」がある、ということでしょうか。

高橋町長　そうです。私がよく言っているのは、三段跳びにたとえると、ヘルスアップがホップで、特定健診がステップだとすれば、「塩彩プロジェクト」はジャンプだということなんです。「塩彩プロジェクト」が、矢巾町だけでなく、岩手県の脳卒中死亡率ワースト1からの脱却の切り札になってくれればと願っています。

ふるさと納税の目玉商品に

――塩彩プロジェクトを成功させるには、需要の開拓や流通が課題になると思いますが、何か腹案はありますか。

高橋町長　地元の方々に食べておいしい、健康にもいいと分かっていただければ、私は黙っていても売れると思っています。でも、それだけじゃありません。ナト・カリ食は給食や病院食、介護食にもうってつけと思います。栄養士さんらの専門家とも相談して、そうした方面での活用も検討し、ぜひ、成功させたいと思っています。また、お隣には盛岡という一大消費地があります。流通には岩手県産にご協力いただけることになっています。

それから、「ナト・カリ食」を全国に発信するため、私はふるさと納税に「ナト・カリ」を活用したいと思ってるんです。矢巾町にふるさと納税すれば、毎月、ナト・カリのみそやしょう油、加工品が届いて、「気軽に」楽しみながら減塩できるとなれば、宣伝にもなるでしょう。良いアイデアだと思うんです。ぜひ、実現させたいと思います。

沿岸被災地とのコラボで、復興を支援

――今月は東日本大震災から5年目の節目です。被災地の普代村と協定を結んで復興の支援をされていると伺っていますが。

高橋町長　震災の後には私も沿岸被災地に入りましたが、そのとき足りなかったのは野菜でした。それで、矢巾町から新鮮な野菜をたくさん持って行きました。そして、今は普代村とのコラボレーションで、普代村産のウニやイクラ、魚などの水産加工品を「ナト・カリ食品」のラインナップに加え、流通させることで、復興のお手伝いをしたいと思っています。

普代村に限らず、岩手県の沿岸被災地の復興支援も、塩彩プロジェクトの大きな柱の一つです。健康と地場産業の育成の二兎だけではなく、「復興支援」の三兎目も追いたいと思っているんです。

オール矢巾でプロジェクトを成功へ

――塩彩プロジェクト成功のために町民の皆さんや、町内の企業・団体に期待されることはありますか。

高橋町長　一番大事なのはそこです。行政はアイデアを出して、仕組みは作れても、工場を建てて加工品を作ったり、それを売ったりはできませんし、それは民間の仕事です。つまり、種を配ることはできても、それをまいて収穫するのは町民の皆さんです。だから、できるだけ多くの個人や、企業、団体にこのプロジェクトに関心を持っていただき、参加してほしいのです。特に農協など力のある団体の参加が、成功には不可欠と考え、お願いしています。行政、農家、製造業者、流通・小売・飲食店など、オール矢巾で、ぜひ「塩彩プロジェクト」を成功させたいと願っています。

○矢巾町塩彩プロジェクト

食塩に比べ高血圧の原因となるナトリウム含有量が少なく、塩味は変わらない「ナト・カリ塩」を用い、町産農産物や県産海産物の加工食品を製造し、町内外に販売する事業支援プロジェクト。「ナト・カリ塩」は食塩（塩化ナトリウム）に含まれるナトリウムの一部をカリウムに置換して作る。矢巾町、岩手大学、盛岡大学、人間総合科学大学（さいたま市）、生活習慣病予防研究センター（東京都）などに加え、町内外の協力企業10社がプロジェクトに参加し、試作品の開発に取り組んでいる。

■「矢巾町塩彩プロジェクト」について詳しくは、役場生きがい推進課（☎611-2821）へ。